

教師ノート

日付	2014年 1月 5日
単元	創世記・5
テーマ	ねたみ
タイトル	ヨセフの夢
テキスト	創世記37章、39:1-6
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Ⅰコリント13:4
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下2巻5題5課
メモ(情報・例話など)	<p>今月はヨセフ物語です。全体を通しては、人間が起こす様々な出来事も、すべて神の支配のうちであり、究極的には神の計画だけが成し遂げられることを学ぶことができます。各週のメッセージでは、ねたみ・試練・赦しといったテーマを扱いますが、教師は創世記37～50章までをよく読み、全体像をしっかり把握しましょう。神がこのとき既に、全世界を救う計画を進めておられたこと、ヨセフに見られるキリストの型などを通して、こどもたちが神の偉大さをあがめ、聖書の奥深さに興味をもつように語りましょう。特に「ヨセフの夢」は、ヨセフ物語全体に関わる、大切な箇所です。</p>
□導入	<p>例:ヤコブには12人の息子たちがいました。今日から、ヤコブの愛する息子ヨセフ(下から2番目)を中心としたお話です。ヨセフが見た夢のせいで、兄弟たちはヨセフをねたみました、なぜでしょう？あなたは、「お兄さんばかり得をしている」とか、「妹は叱られなくてズルい」とか思ったことはありませんか？</p>
□ポイント1 ヨセフは兄たちにねたまれました(37:1-11)	<p>ヨセフは父ヤコブが歳をとってから生まれた子だったので、他の兄弟(兄10人と弟1人)よりも、かわいがられていました。ヤコブは、ヨセフにだけ特別な着物を作ってあげました。それでお兄さんたちは「何だよ、あいつばかり！」と、ヨセフをねたみ、いつも怒っていました。そんなある日、ヨセフは自分の見た不思議な夢について、兄さんたちに話しました。「僕たちは畑で麦束を作っていました。僕が1つの束を作って地面に置くと、その束がまっすぐ立ち上がりました。すると兄さんたちの束は、僕の束におじぎをしたのです。」この話を聞くとお兄さんたちは、「お前が私たち兄弟の支配者になるとも言いたいのか！」と、ますますヨセフを憎むようになりました。またある晩、ヨセフは夢をみて、「僕は太陽と月と11の星が僕を拝んでいる夢を見ました」と家族に話しました。父ヤコブは「兄弟だけでなく、父・母までも、家族みんながお前を拝むようになるとも言うのか！」とヨセフを叱りました。兄さんたちは、ヨセフをねたむ思いが非常に強くなり、もう憎らしくてたまらなくなりました。ヤコブは、この夢を通して神さまがどんなことを語っておられるのか考えました。</p>
☞	旧約の時代、神が夢を通してメッセージを伝えるというのは、一般的な理解でした。
☞	長服を作るという行為から、ヤコブが意識的に、他の兄弟とヨセフとの区別を明らかにしようとしていたことがうかがえます。ヤコブがヨセフを偏愛した理由について、29～30章を読んで、より深く理解しておきましょう。

□ポイント2 兄たちはヨセフを商人に売りました(37:12-36)

ある日、ヨセフは父ヤコブから、シュケムに行って、そこで羊の世話をしている兄さんたちの様子を見てくるように頼まれました。ヨセフは素直に引き受け、荒野を歩いていきました。兄さんたちは、シュケムからドタンに移動していました。兄さんたちは、ヨセフがやってくるのを遠くに見て、彼を殺す計画をたてました。彼らの心に、以前からのねたみの思いが湧き出して、「しめしめ…、これはチャンスだ」と思ったのでしょうが、弟を殺そうとは、なんて恐ろしい考えでしょう。長男のルベンだけが、それに反対しました。「殺してはならない。せめて、出られないような穴に入れるだけにしよう。」ヨセフは兄さんたちによって、大切な長服を剥ぎ取られ、深い穴に投げ落とされました。その後、兄さんたちが食事をしていると、ラクダに荷物を乗せて、エジプトへ行く商人たちが通りかかりました。ユダは「ヨセフをただ殺しても、何の得にもならない。彼を奴隷として売れば、お金が手に入るぞ」と言いました。他の兄弟たちも賛成しました。穴から出され、銀貨20枚(レビ27:5)で商人に引き渡される間、ヨセフはどんな気持ちだったでしょう。ルベンはその時、その場にいませんでした。彼がヨセフを助けに来たときには、もう手遅れでした。

□ポイント3 ヨセフはエジプトに連れて行かれました(39:1-6)

兄さんたちは、ヨセフの長服にヤギの血をつけて、父ヤコブのところにもって帰りました。ヨセフを売ったことがバレたら、ヤコブは彼らに厳しい罰を与えたはずですが、それを恐れて、彼らはウソの報告をしたのです。ヤコブは、死んでしまいたいと思うくらい、ひどく悲しみました。ヨセフは、ミデヤンの商人たちによってエジプトへ連れて行かれました。ここからはエジプトで起こったことのお話です。エジプトへの熱い砂漠を旅する間、ヨセフの心は深い悲しみと不安でいっぱいだったでしょう。エジプトに着くと、ポティファルという、宮廷でパロの側近くに仕える役人の長が、ヨセフを奴隷として買い取りました。兄弟にひどいめにあわされ、奴隷として売られるとは、なんて辛いことでしょう。あなたなら、どん底の中で、その先の自分の人生をどのように考えるでしょうか。しかし神は、ヨセフを「幸運な人」としてくださったのです。ヨセフは主人に非常に気に入られ、その家の全財産の管理まで、信頼して任されるようになりました。主がヨセフとともにおられ、彼のすることすべてを成功させてくださったのです。

📖 パロ…古代エジプトの王の称号

□結論 ヨセフは兄たちにねたまれ、エジプトに売られました 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

ヨセフの兄弟は、ヨセフを売ってしまった後、幸せな気持ちになったと思いますか？ヨセフをねたむ気持ちから、大きな罪を犯してしまい、その結果、家族がバラバラになってしまいました。ねたんだり、憎んだりする気持ちを捨てて、人を愛せる人になりましょう。みなさんは友だちや兄弟をねたんでしまうことはありませんか？「あの子はいつもほめられる」「アイツばかりみんなに人気がある」「私より勉強ができる」「俺よりたくさんオモチャをもってる」「いつも兄(弟)ばかり得をしている」「いつも姉(妹)ばかりかわいがられる」そう思うことはありませんか？それでそのお友だちをキライになったり、兄弟に意地悪をしたくなってしまうことはありませんか？「ねたみ」は悪い思いです(ガラテヤ19:21、マタイ27:18、ローマ1:29,13:13、Iコリント3:3等)。お祈りをして、ねたむ心を取り除いていただきましょう。

人をねたんだり、うらやましがったり、蹴落としたりする必要はありません。なぜなら、あなたを愛し、あなたのすることをすべて祝福してくださるイエスさまがともにおられますから。ヨセフの兄弟は彼を売り飛ばしてしまいましたが、神さまはヨセフを決して見放しませんでした。それどころか、幸運を与え、ヨセフのすることを何でも成功させてくださいました。ヨセフは主人に非常に気に入られ、その家の全財産の管理まで、信頼して任されるようになりました。聖書には、「主が彼とともにおられ、主が彼のすることすべてを成功させてくださるのを見た。」とあります。ヨセフは確かに、一生懸命努力して、主人に仕えたでしょう。しかしヨセフが成功したのは、彼の努力や才能ではなく、ただヨセフとともにいてくださる神さまのお蔭なのです。不幸のどん底にいても、ともにいてくださる神さまを信じましょう。